

# 途上国の社会が様々なリスクに強くなるには

## こんな問題に取り組んでいます

途上国は様々なリスクにさらされています。たとえば、自然災害。東日本大震災の例をみてもわかるように、巨大地震災害などへの対応には社会の対応能力や復元能力が必要です。

そのような社会の能力を実現するために何が重要なのか。社会やコミュニティがリスクに対応する仕組みやそれを助けるメカニズムについて研究を行っています。

## こんなことがわかってきました

途上国コミュニティの人々のコミュニケーションのネットワークは、リスクに応じて変化していきます。その変化を見極めて人々とコンタクトをとることが重要です。また、自然災害の情報が限られている途上国ではインフラ施設の設計はどのようにあるべきか等の知見も得られています。

## 研究の成果はこんな分野に活かされます

途上国での公共インフラ施設の設計や計画において、災害などの影響を考慮した高度化を図ることができます。また、コミュニティが様々なリスクから受ける影響を小さくすることができると思っています。

**連絡先:** 東京大学 大学院新領域創成科学研究科 国際協力学専攻  
 本田利器 <rhonda@k.u-tokyo.ac.jp>

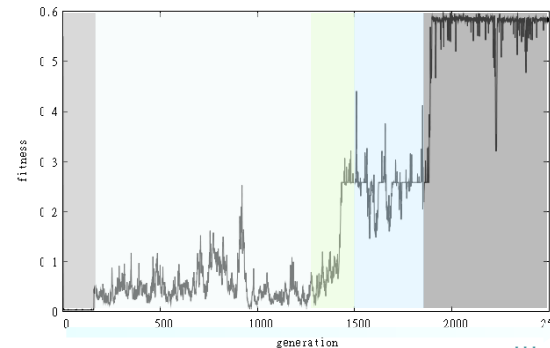


2004年インド洋沖地震(M9)により被災したバンダアチェ(インドネシア)

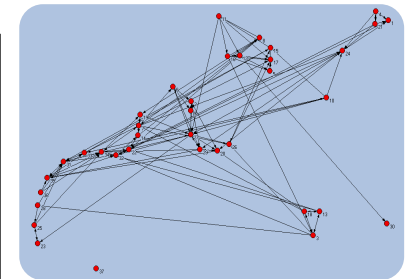
高速道路建設に反対する住民がおいた岩が道路をふさぐ(ベトナム)



利得



共有資源の利用に関する協調行動の出現(ゲーム論にもとづくシミュレーション)



住民の意見交換のネットワークと、居住地の関係(ベトナム)